

4年	単 元 名	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう ～新しく来られたALTの先生に日本の伝統工芸品の歴史と魅力を伝えよう！～
(教科)国語		

1. 単元の目標

- ◎事典の使い方を理解し使う事ができる。(知(2)イ)
- ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ)
- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思C(1)ウ)
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く事ができる。(知(3)オ)

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- ・日本の伝統工芸品を書籍から調べ、プレゼンに必要な情報を集める事ができる。
- ・新しく来られたALTの先生(相手意識)に日本の伝統工芸品を伝えること(目的意識)を柱に、資料を活用し調べる必要感をもっている。

3. 児童について(略)

4. 単元指導計画

時間	学習内容(●手立て)
1・2	◎学習計画を立てて、見通しをもつ。 ・和紙のニュースを見たり、石州和紙の実物を見たりして、伝統工芸について関心をもつ。単元末にリーフレット贈呈式を行う活動を確認する。 ・伝統工芸品に関する本を読み、グループで発表したい伝統工芸品の種類を選ぶ。 (●児童が読みやすい資料を用意しておく。)
3～6	◎筆者はどのように魅力を感じているか読み取る ・「世界にほこる和紙」を読み、おおまかな内容を捉える。 ・段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。 ・「中」に述べられている、筆者の考える魅力を読み取る。(要約) (●魅力を見つけるために接続語に注目するように声掛けをする。) (●要約する事が難しい児童は、穴埋め式のワークシートを用意する)
7	・「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。
8	・個人で、紹介したい伝統工芸品を調べる。 (●調べる事に困っている児童には、調べる手順を示す①歴史②いいなと思った所③産地) (●歴史を調べる時に、年表を示す)

9(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた事を出し合い、ALTの先生に伝えたい伝統工芸品を選んだり、さらに調べたりする。 (●選書が難しい児童にはグループの友だちと相談したり、先生や学校司書に相談したりするように声掛けする) (●百科事典の使い方、「世界にほこる和紙」で学習した要約のポイントを掲示する。)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報をまとめる。
11~15	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容をまとめ、リーフレットを書く。 ・リーフレットを紹介する時の発表練習をする。
16	ALTの方へのリーフレット贈呈式を開く。

5. 授業での活用場面

ねらい 伝統工芸品の歴史や魅力について、本や百科事典などを用いて、必要な知識や情報を得る事ができる。

学習活動	○教師の手立て
1. 前時の振り返りをして、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の授業でリーフレットにのせたい情報を集めたことを振り返り、本時はグループで相談しながら、どの伝統工芸品にするか話し合うことを確認する。 ○ALTの先生の顔写真を掲示し、相手意識を持たせる。
<p>リーフレットにくわしくのせたい伝統工芸品を選んで、さらにくわしく調べよう！</p>	
2. 前時に個人で集めた情報をグループで確認する。 ・自分が選んだ伝統工芸品の情報をグループ内で共有する。 ・ALTの先生になったつもりで聞き、リアクションシールを貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ○情報カードに書いたことを一人一人発表する。 ○聞いている人は、どの伝統工芸品が良いか考えながら聞く。 ○情報カードには、資料からの情報を要約して書くようにする。 ○一人が発表し、残りの二人はラヒル先生になったつもりで聞くように声掛けする。
3. どの伝統工芸品をさらに詳しく調べるか話し合う。	○ALTの先生の情報をもとに、どの伝統工芸品を詳しく調べるか決めるよう声掛けする。
4. 選んだ伝統工芸品について、さらに調べる。 ・グループで協力して資料を読んで、新しい情報を探す。	<ul style="list-style-type: none"> ○さらに新しい情報を探すときにも、伝えたい情報を探すように声掛けをする。3の活動で話し合った事も基に、調べるように声掛けする ○前時に調べた情報を見て、足りない情報を探し、情報を集める。 ○資料の中から情報を探し、前時とは違う色の情報カードに、情報を要約して記録する。
5. 本時のまとめと、次時の活動を確認する。 ・次の時間は、リーフレットの割り付けに入ることを確認する。	○本時のまとめと、次の時間の内容を確認し、見通しを持たせることで、次の時間への意欲を高める。

6. 研究協議の記録及び考察 (成果や課題等)

本単元の成果として、大きく二つ挙げられる。一つ目は、相手意識を持たせたことにより、児童が意欲的に学習に取り組んでいた事である。本単元では、日本の事をまだくわしく知らない ALT の先生という具体的なターゲットを設定したことで、児童が必要感をもって日本の伝統工芸品について調べる事ができた。また、直接インタビューを行ったことで、より ALT の先生が紹介されて喜ぶであろう伝統工芸品を選び、伝えようとする姿が見られた。授業以外の場面でも、服装を観察したり、コミュニケーションをとったりして、ALT の先生についての情報を集めようとする児童の姿があり、相手意識をもって学習に取り組んでいる様子が見られた。

また、グループで同じジャンルの伝統工芸品について紹介する事により、協働的に学ぶ児童の姿が多く見られた。特に本時では、紹介するメインの伝統工芸品を選ぶ活動を行ったが、事前に調べた ALT の先生の情報に基づき、意見を活発に出す姿があった。本時までには、自分が紹介したい伝統工芸品について情報カードを活用して調べた。その情報を基に、より ALT の先生が喜ぶ伝統工芸品はどれかを議論していた。児童が同じ目的で、同じ相手意識をもって学習を進めたことで、より深い話し合い活動を展開することができた。

課題としては、情報カードの事前指導の重要さと、合意形成の難しさが挙げられる。情報カードの事前指導では、資料から自分がいいなと思った情報を書きぬく指導を行った。児童はある程度、自分が欲しい情報を探し、要約しながら情報を集める事ができた。しかし、本時の意見交流の際に、事前に書いた沢山の情報カードが何について書かれているかが分かりにくく、かえって情報を伝えにくくなっている姿が見られた。改善策として、情報カードのタイトルに、伝統工芸品の何について書いたか記すことが挙げられる。

合意形成の難しさでは、どの伝統工芸品をメインで伝えるかの話し合いの際(本時)に、一つに考えをまとめる難しさがあった。本時までには、一生懸命自分が紹介したい伝統工芸品を調べたので、どの児童も自分が調べた伝統工芸品をメインで伝えたいと思っていたが、そこで、意見がぶつかった時に、なかなかどれをメインにするか決める事ができないグループが多くあった。教師の手立てとして、事前にインタビューをして ALT の先生の情報を集め、それを基に話し合いを進める事と、メインにならなかった伝統工芸品もリーフレットに載せることができる事としたが、本時の話し合いでは、考えをまとめることが難しかった。児童の中に、メインの伝統工芸品を選ぶ必要感がなかったように感じる。協働的な学びの場をつくらうとしたが、かえって児童の必要感のない話し合いとなってしまった。

本単元の学習では、成果と課題、ともに挙げられたが、これからも児童には相手意識と目的意識をもたせながら、学習活動に取り組ませたい。